

「生物多様性の主流化」に向けた CEPA(広報・教育・普及啓発)の強化

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

南方熊楠に学ぶ
シンポジウム開催

3件

収集した海洋保全の
優良事例

20件

今年度計画の達成度

90%

目標達成度

90%

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

シンポジウム・海洋保全事例収集・CEPA散歩を優先した活動としたため、スタッフのリソース及び資金的な問題で、他の活動を絞らざるを得なかった。

■ 工夫した点

地域での取組みにおいて行政・地域住民・関係者との連携をさらに強化し、企画の立案・作成・実施において協働した。



国際会議で海洋保全の優良事例を収集

課 題

愛知目標1達成のため、関係者と協働し、「容易な言葉」で「優良事例をツール化」して展開し、「日常の行動で常に生物多様性に配慮」できるための行動変容を促す。

目 標

地域CEPA(広報・教育・普及啓発)拠点設立とCEPAツール活用。生物多様性と共生する回復能力の高い地域づくり策立案。生物多様性配慮商品の市民認知率7%超。

活動内容と成果

①日本固有の生態系の研究をいかした生物多様性の主流化の加速、②生物多様性と共生するレジリエンスの高い地域づくりの拡大、③生物多様性に配慮した購買行動の促進、に向けた活動予定をほぼ実施できた。

- 地域CEPA拠点候補3か所で日本固有の生態系をいかした生物多様性CEPAツールを用いたシンポジウムを開催
- 生物多様性条約第14回締約国会議等に参加
- 生物多様性保全の優良事例を24件収集
- 生物多様性に配慮した商品152事例をWeb公開
- CEPAさんぽトライアル/下見を24か所で実施



CEPA散歩で街中の生物多様性を実感



生物多様性保全の優良事例を収集

全助成期間の活動を振り返って

日本固有の生態系を活用した事例集を作成し、地域CEPA拠点候補の図書館3か所でシンポジウムを実施できた。今後も継続して企画・実施したい。また、事例収集を多数行い、グリーン復興ツール・南三陸事例展開ツールにつなげられた。それらを活用してノウハウ伝承のワークショップを進めたい。さらに、市民認証コンテンツを収集・Web公開し、CEPAさんぽツールを作成しトライアルできた。継続して取組みを拡大したい。

| 活動地域 | 日本全域

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-2-5

CTNビル3F EFF内

電話: 03-5256-6770

E-mail: info@cepajapan.org

http://cepajapan.org/



今後の 展望

最終ゴールの2020年愛知目標1達成に向けて取組みを拡大していく。地域CEPA拠点として全国各地の図書館との連携を進め、地域づくりにおけるツール活用を拡大し、ツール改善も進める。さらに2030年をゴールとする生物多様性条約の次の目標への貢献を目指す。さらには、生物多様性保全と密接な関係がある2030年をゴールとする持続可能な開発目標(SDGs)についても、その達成への貢献を図っていく。